



子ども健康部 幼児課令和6年9月発行

9/9は救急の日 いざという時の対処法を知ろう

9月9日は救急の日です。

元気いっぱい活動する子どもたちですが、さまざまな事故にあう恐れがあります。事例と対策について知り、予防に努めましょう。

窒息・誤嚥

子どもの死亡原因で各年齢の上位を占めているのは「不慮の事故」です。

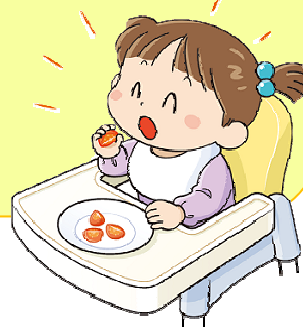
直近5年間で407件発生している「不慮の窒息」事故は、0歳が最も多く、64.6%を占めており、1~4歳では22.6%、5~9歳では5.9%を占めています。

事例

- カットパン一つを丸々飲み込もうとして窒息。救急搬送されたが死亡した。(10か月)
- ちぎったカットパンを食べさせたところ窒息した。(11か月)
- すりおろしたリンゴを食べた後に窒息、死亡した。(6か月)
- カットしていないミニトマトを食べたところ、急に苦しうになり、泣くこともできない様子だった。保護者が背中を叩くと飲み込んだようで、声を出して泣き、呼吸も安定した。(1歳5か月)
- おやつフルーツポンチに入っていた白玉で窒息、死亡した。(2歳)
- 積み木を誤って飲み込み、意識不明となった。(1歳)
- 窓にかけるブラインドやロールカーテンのひもが首にからまり、意識不明となったり死亡したりした。(さまざまな年齢で報告)

対策

- ミニトマトやぶどうなど、丸くてつるつるした食品は、1/4に切って食べさせるようにしましょう。
- 食事の際は、水分を摂って喉を湿らせましょう。
- 食べているときは、姿勢を良くし、食べることに集中させましょう。食べ物を口に入れたままで、走ったり、笑ったり、泣いたり、声を出したりすると、誤って吸い込み、窒息・誤嚥するリスクが高まります。
- 市販品に表示されている対象月齢はあくまで目安です。表示されている注意事項を確認し、食べさせる前にもう一度子どもに与えて良いか考えましょう。
- 5歳以下の子どものにはピーナッツやアーモンド、枝豆などを与えないようにしましょう。
- 積み木やスーパーボール、BB弾などのおもちゃに気をつけましょう。
- ひも・電気コードなどを放置しないようにしましょう。



起こってしまったときの対応

●1歳未満の乳児

①胸部突き上げ法

片手で体を支え、手のひらで後頭部をしっかりと支える。左右の乳頭を結んだ線の中央で少し足側を、指2本で押す。

②背部叩打法

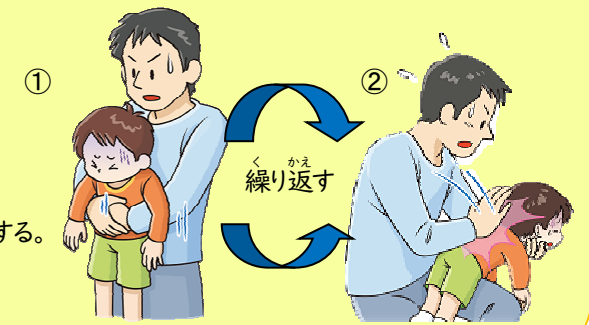
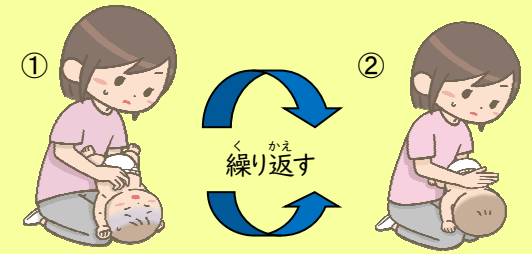
片手で体を支え、手のひらであごをしっかりと支える。もう一方の手のひらの付け根で背中をしっかりと叩く。

●1歳以上の幼児

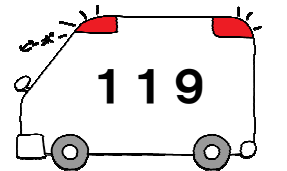
①腹部突き上げ法

背後から両腕をまわし、子どものみぞおちの下で片方の手を握りこぶしにする。その手を腹部の上方へ圧迫する。

②①と背部叩打法を繰り返す。



窒息後、呼吸が戻った場合でも、念のため病院を受診しましょう。呼吸が止まっている場合は、直ちに心肺蘇生を行いながら119番通報し、救急車を呼びましょう。



参考: とも家庭庁ホームページ (<https://www.cfa.go.jp/policies/child-safety-actions/handbook/content-7/>) (参照 2024-07-23) 子どもの救急 (<http://kodomo-qq.jp/>) (参照 2024-07-23)



救急車の呼び方について

- ① 局番なしの「119」に電話をかける
- ② 「救急車をお願いします」と言う
- ③ 住所または事故の場所(道順・目標物など)を言う
- ④ 名前を言う
- ⑤ 詳しく(いつ・だれが・どこで・どうした・今どうしているなど)状態を説明する
- ⑥ 到着までの指示を受け、応急処置をする

<救急車が到着するまでに準備しておくもの>

- 保険証や診察券
- 普段飲んでいる薬(おくすり手帳)
- お金
- 靴

※乳幼児の場合

- 母子健康手帳
- 紙おむつ
- ほ乳瓶
- タオル

<救急車が到着したら伝えること>

- 事故や具合が悪くなった状況や救急隊が到着するまでの変化
- 行った応急処置の内容
- 具合の悪い人の情報(持病やかかりつけの病院、ふだん飲んでいる薬、医師の指示など)